

介入の結果、主観的健康観が改善した超高齢者の事例

聖志会 渡辺病院 作業療法科

盛健登 門岡奈月 吉村知紗 加賀美空

【はじめに】主観的健康観とは現在の自分自身の健康状態を、「健康な方だと思う」、「健康ではない」と自己評価する 4 段階の評価である。従来、死亡率、有病率などの指標が重視されていたが、現在は、主観的健康観などの健康指標が重視され、生命予後に関係していたと報告されている。今回、作業療法を行なった結果、主観的健康観が改善した事例を経験したので、若干の考察を加え報告したい。尚、発表に際して個人情報取り扱いに留意し本人家族の同意を得ている。

【事例紹介】A 氏、90 代前半、女性、軽度認知障害。既往歴：狭心症、第 12 胸椎、2 腰椎圧迫骨折、誤嚥性肺炎。現病歴：長男家族と共に在宅での生活を送っていた。X-1 年、左腰部痛がみられたため、翌日、新たな第 1 腰椎圧迫骨折ため B 病院へ入院となった。X 年、入院中誤嚥性肺炎を発症。理学療法士、作業療法士（以下 OT）、言語聴覚士による嚥下訓練を行なうも嚥下機能の改善はみられず、継続しての療養が必

要であったため、当院医療療養病棟に転院。その後、軽快したため当院に隣接する老人ホームに入所するもほとんど臥床していた。

【生活行為目標の聞き取り】目標：編み物がしたい。実行度：1/10、満足度：1/10

【生活行為目標の分析】①心身機能・構造：弱み：視力の低下、強み：認知機能が良好（HDS-R:20）、編み物への意欲あり②活動と参加：弱み：終日臥床傾向、強み：リクライニングでの座位保持可能、編み物を行える手指の巧緻性は残存③環境因子：弱み：経済的に高価な毛糸等の購入は困難、強み：院内の毛糸とかぎ針を使用可能、自室にて編み物作業が可能

【主観的健康観】「健康な方だと思う」。日本語版 PANAS：PA：22/48、NA：16/48

【ライフレビュー】：幼少期：10数名の第5子として生まれた。「戦争中は楽しかった思い出はない」。青年期：生け花と編み物の資格取得。教室を開きたかったが、結婚したため断

念した。家族で経営する鉄工場の事務として働いた。人生振り返ると「教室を開きたかった。」という。

【方針と目標】OT に編み物を教えることで、師弟関係を築き、役割付けを行う。肺炎防止のため、座位保持時間の延長。

【介入方法】①A氏が編み物で使いたい色の毛糸を選んでもらう②達成感を獲得しやすい、自室にて作業工程の少ない「アクリルたわし」の作成をOTから提案③OTへの編み物の指導を依頼、師弟関係を築く

【介入経過】初期（一週間）：眼がよかったらきれいにできるのにと、何度も途中でやり直したりと、後ろ向き発言がみられていた。中期（三週間）（退所予定のため短時間で完成出来るコースターに変更提案）：OTに編み物を指導「初めて人に教えたので、難しかったけど、すごい楽しい、ありがとう。」 後期（一週間）：コースターを完成させると「編み物を作ってるときが一番楽しいね。」と発言。完成作品を見ながら「本当に出来るとは思わなかった。よかったわ。」と笑顔で仰っていた。座位保持時間を延長はわずかであった。その後、施設都合により療養病棟に再入院となったが、肺炎、

骨折、誤嚥の再発もなく、日中臥床することなく車椅子を利用し過ごされている。

【最終評価】 実行度：4/10 満足度：6/10。主観的健康観：編み物をしているときは「非常に健康な方だと思う」。日本語版 PANAS： PA：34/48、NA：15/48。

【考察】A氏の趣味であった編み物を行うことで主観的健康観が最高位に改善した。特に、A氏自身で最初から作成し完成させたため、大きな達成感を得ることが出来た。退所された後も、体調悪化もなく日中車椅子を利用し、主観的健康観の改善が予後を改善したと思われた。今後生活場面にも役割を導入ことを目標にしたい。